

いしかわの遺跡



いしかわの発掘展

弥生人のくらしと技

7月23日から8月31日までの40日間にわたって、弥生時代の“ものづくり”に焦点をあてた、第6回いしかわの発掘展『弥生人のくらしと技』を開催しました。

今年度はセンター全体として「発見！体験！弥生ワールド」と題し、体験工房での体験メニューも弥生時代のものを集めるなど、「見る」「考える」「体験する」を結びつけた内容となりました。

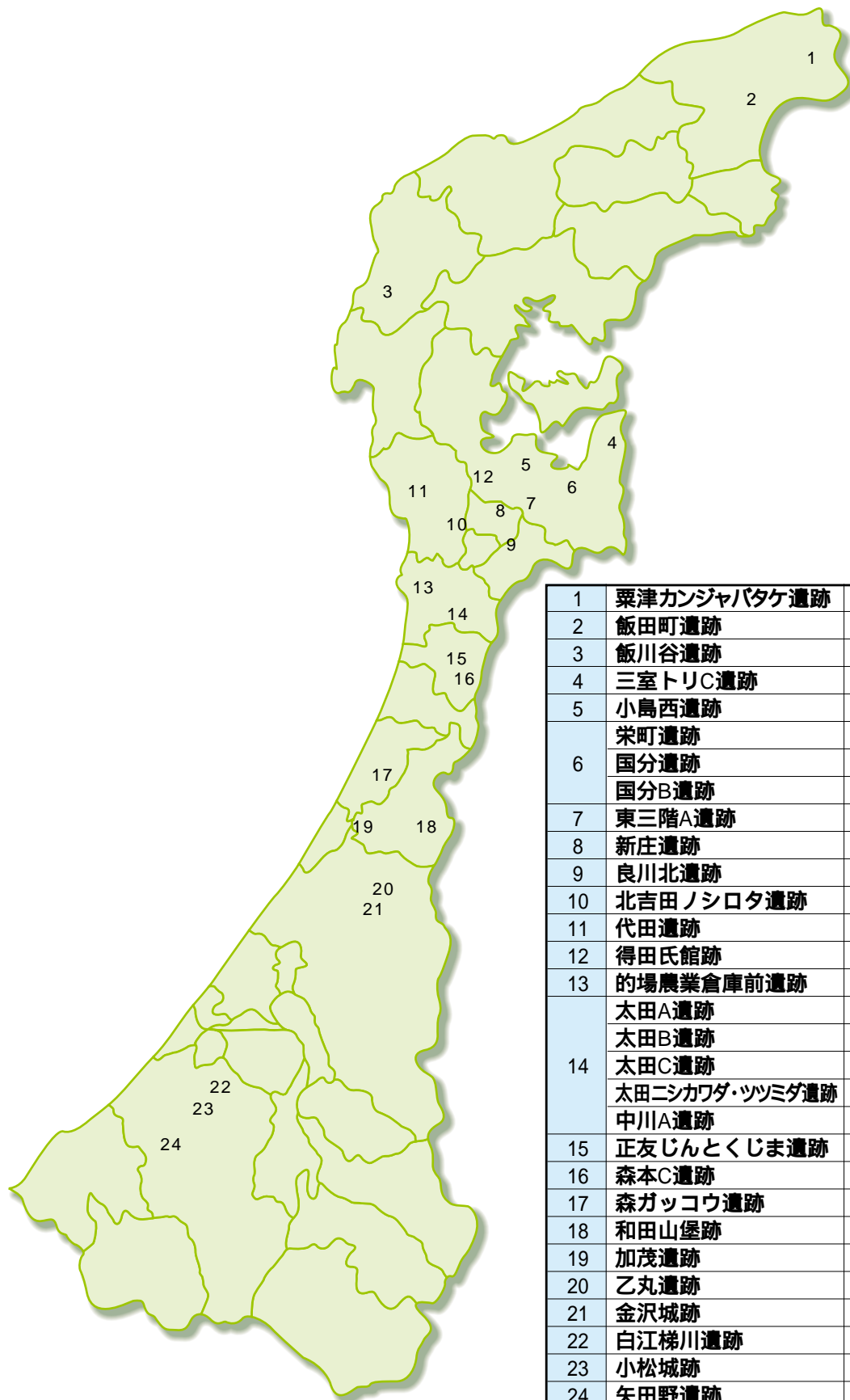
〔写真上：籬（白江梯川遺跡） 左下：竖櫛（野本遺跡） 右下：骨鏃（近岡遺跡） 木鏃（荻市遺跡） 銚（吉崎・次場遺跡）〕

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731
E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp
ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

平成16年度 発掘調査遺跡(4月～9月)



1	粟津カンジャバタケ遺跡	珠洲市三崎町粟津
2	飯田町遺跡	珠洲市飯田町
3	飯川谷遺跡	門前町飯川谷
4	三室トリC遺跡	七尾市三室町
5	小島西遺跡	七尾市小島町
6	栄町遺跡	七尾市栄町
	国分遺跡	七尾市国分町
6	国分B遺跡	七尾市国分町
	東三階A遺跡	七尾市東三階町
7	東三階A遺跡	七尾市東三階町
8	新庄遺跡	鳥屋町新庄
9	良川北遺跡	鳥屋町良川
10	北吉田ノシロタ遺跡	志賀町北吉田
11	代田遺跡	志賀町代田
12	得田氏館跡	志賀町館開
13	的場農業倉庫前遺跡	羽咋市の場町
14	太田A遺跡	羽咋市太田町
	太田B遺跡	羽咋市太田町
	太田C遺跡	羽咋市太田町
	太田ニシカワダ・ツツミダ遺跡	羽咋市太田町
	中川A遺跡	羽咋市中川町
15	正友じんとくじま遺跡	押水町正友
16	森本C遺跡	押水町森本
17	森ガッコウ遺跡	かほく市森
18	和田山堡跡	津幡町岩崎・富田
19	加茂遺跡	津幡町加茂
20	乙丸遺跡	金沢市乙丸
21	金沢城跡	金沢市広坂
22	白江梯川遺跡	小松市白江
23	小松城跡	小松市丸内町
24	矢田野遺跡	小松市矢田野町

発掘調査から

小松城跡

小松城跡は、小松市丸内町地内に位置し、加賀藩前田利常の隠居城として知られています。本調査は、平成11・12・14年度に続く小松高校校舎改築に伴う調査です。発掘箇所は、18世紀後半頃の城内文間絵図との照合により小松城二の丸の中央の馬廻り上番所付近と考えられます。調査区を東西に二分し、東半部（1～3区）・西半部（4～7区）の順に実施したところ、現地表面下80cm（上層）と140cm（下層）の地山の2面で遺構を確認しました。東半部上層面上で確認した主な遺構としては、硬化の著しい土層面が挙げられます（2区～3区）。硬化した範囲は幅3.5～5.3mで南北方向に延び、東西両脇に溝状のくぼみを伴っていました。硬化面以下から出土した遺物により、17世紀以降に構築されたものと思われます。下図丸印部分に見える道の可能性もあります。下層面の遺構には、土坑（1区・2区）、溝（2区）等があります。土坑・溝からは15～16世紀の遺物が出土しました。西半部の大半は旧校舎の建設工事等により下層以下まで壊されていましたが、東端の4区では上・下層の遺構面が確認できました。上層は17世紀中葉以降と想定され、凝灰岩切石や石臼破片を組んだ石積み遺構を検出しました。規模は東西約2mで、北側に面がそろっています。裏込めには貝殻や燻し瓦が混入されていました。下層では東半部同様の時期と考えられる溝・小穴を検出しました。北西端の7区では攪乱を免れた部分に上・下層面が残っていましたが、遺構は確認できませんでした。

今回の調査では、従来遺構確認面として認識されていなかった上層面が確認できました。時期的には寛永年間の前田利常による大規模改修以後と判断される遺構面であり、小松城の全貌を明らかにする上で重要な成果が得られたといえるでしょう。



城内文間絵図『小松市史資料編 1 小松城』より転載



東半部調査区(2・3区)全景 東から
小松高校旧校舎より撮影



2区 南壁面 硬化した整地面を確認



4区 石積み遺構 北から

発掘調査から

乙丸遺跡



発見された弥生時代の溝



線路横での調査



最も浅い地点でもこの深さ



最も深い地点では鉄骨で壁を支える

^{おとまる}乙丸遺跡は金沢市乙丸町、浅野本町地内に存在します。地形としては浅野川と金腐川に挟まれた平野部にあたり、地表面の標高は約6mです。かつては水田が広がっていた場所でしたが、現在は道路と線路が交差し、建物が密集するなど市街地化が進んでおり、その面影はほとんどありません。

今回の調査は北陸新幹線の建設工事に伴って行われており、JR北陸本線の南側に接する地点を発掘しました。その結果、厚い堆積土の下から弥生時代の溝や洪水の跡などが発見されました。遺構・遺物とも少なかったため、遺跡の性格は明らかにできませんでしたが、当時の村がこの近くに存在することが推定されます。

一般に、弥生時代の村は水田を営みやすい平野部に多く見られ、乙丸遺跡の周辺には磯部運動公園遺跡や沖町遺跡など弥生・古墳時代の有名な遺跡が位置しています。しかし、同じ平野部でも発掘調査の機会に恵まれない今回のような市街地では、その実体はよくわかっていません。乙丸遺跡は貴重な調査例といえます。

なお、採取した土壌の科学分析も予定されており、当時の環境などが明らかになることも期待されています。

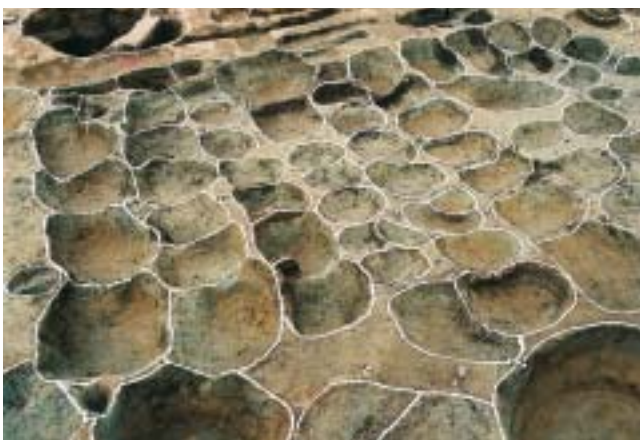
小島西遺跡



調査区航空写真
区画溝や井戸が見えます。



土師器皿出土状況（16世紀）
たくさんの皿が炭化物といっしょに出土しました。



四角い穴が並んでみつけられました。
甕を埋めた穴かな



木組みの井戸です。底には砂利が入られていました。
水をきれいにする工夫かな

小島西遺跡は、能登半島の七尾湾岸、七尾市小島町地内に位置します。今年度の調査では、古墳時代から近世にかけての遺構、遺物が確認されています。

古墳時代では、^{あんぶ}鞍部から大量の須恵器、土師器と共に子持勾玉、白玉が出土しました。玉類を用いて祭祀が行われていたものと考えられます。

奈良・平安時代では、旧海岸線に面した平坦面から^{いくしひどがた}斎串、人形、馬形といった木製祭祀具が大量かつ集中して出土しています。

中世から近世では、溝で区画された16世紀前半代の^{やしきち}屋敷地を検出しました。屋敷地では掘立柱建物や井戸、土坑を検出し、土坑から炭化物と共に大量の土師器皿が出土しました。また、骨片が出土する土坑もありました。

井戸も多く検出されており、井戸枠も木組み、石組みと分かれています。

このように、今回の発掘調査では、海沿いで活動した人々の生活や信仰の一端を知る様々な遺物が見つかっています。

普及啓発 古代体験マニュアル

埋蔵文化財センターで行われる古代体験のテキストとして、これまで4種類の「古代体験マニュアル」を作製しました。それぞれの体験内容を、写真を使ってわかりやすく解説しているだけでなく、体験の根拠ともなっている出土品や歴史などを盛り込んでいます。今後も種類を増やしていく予定ですので、体験をされる際には参考にしてください。



第6回いしかわの発掘展 「弥生人のくらしと技」

弥生時代は稲作を中心とした農耕の時代です。稲作農耕は中国大陸や朝鮮半島から日本に伝わり、その影響は住まい、道具、慣習、祭りなどに現れ、生活のあらゆる面を大きく変化させ、結果として社会に階層分化をもたらしました。

今回の発掘展では、いしかわに生きた弥生時代の人々が、大きな変革の時代の中でどのような営みを送っていたのかを考えることを目的として企画しました。

展示は、「弥生土器」「ムラと住まい」「農耕と食」「祭りと墓」「ものづくり」の5つのコーナーで構成しました。



企画展展示風景



土器野焼きモデルの展示

各コーナーでは、体験工房で実施している弥生時代の体験に関連する道具などもあわせて展示し、発掘成果をもとに体験メニューが行われていることを理解していただけるように心がけました。

ワラの上に
泥を塗る



ワラに点火して
待つこと約2時間



復元農具

弥生時代の土器焼成

弥生時代に行われていたとされる土器の焼成方法は、野焼きの中でも「覆い焼き」と呼ばれる方法で、土器を覆ったワラや泥が、簡易な窯の役割を果たすため、急激な温度変化を防ぐことができ、薪の炎で焼く「開放型」より高温を保つことが可能です。

燃料も、土器を覆うワラの他、薪をわずかしかなければならないため、環境にも優しい省エネタイプの野焼きです。

今回の企画展では、土器野焼きのモデルを展示に加えましたが、期間途中でそのまま持ち出し、実際に焼成しました。展示期間の後半は、焼き上がったモデルをそのままの状態



土器を覆う土とワラを慎重に取り除くと、焼き上がった土器が現れます。



展示期間の後半は、この状態で展示しました。

訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

さいほうじ 県指定史跡 西方寺古窯跡（西方寺1号窯跡）

西方寺古窯跡は、珠洲市鷺飼川流域に開けた平地の最奥部に位置する珠洲焼の窯跡です。窯は丘陵突端の岩盤をくり抜いて築かれた地下式窯で、全長13m以上、幅1.2～3.2m、高さ1～1.1mの長大なものです。床は平均28度前後の急勾配で、窯の内部は低平なかまぼこ形の断面形をしています。焚き口部と煙道部が元の形をとどめていませんが、焼成室の天井が完存する全国でも貴重な窯跡で、昭和50年に県指定の史跡となりました。

珠洲焼は、5世紀頃に朝鮮半島から伝わった須恵器の技術を踏襲し、12世紀中頃（平安時代末）から15世紀末（室町時代後期）にかけて、珠洲郡（現在の珠洲市と珠洲郡内浦町）において生産されました。現在までに40基ほどの珠洲焼を焼いた窯跡が見つかっています。生産された珠洲焼は、主に海上輸送により流通しました。その流通範囲は、鎌倉時代には越前から東北地方の日本海側の地域、室町時代には北海道南部にまで広がっていましたが、その後急速に衰え、まもなく廃絶してしまいました。

現在、各地で出土したものや伝世品などが珠洲焼資料館に展示されています。珠洲焼をとおりて中世の珠洲に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。是非、西方寺古窯跡とあわせて訪ねてみましょう。



西方寺1号窯跡



西方寺1号窯跡内部



珠洲焼資料館

西方寺古窯跡

所在地：珠洲市宝立町柏原

交通：能登空港より車で約40分

奥能登バス「西方寺」バス停下車徒歩3分

珠洲市立珠洲焼資料館

所在地：珠洲市蛸島町1-2-563

開館：午前9時～午後5時（年末年始は休館）

入館料：一般310円、小・中・高生150円（団体割引あり）

交通：能登空港より車で約1時間

北鉄バス特急「珠洲鉢ヶ崎」バス停下車すぐ

お問い合わせ：珠洲市立珠洲焼資料館 0768-82-6200